



中部電力

ダム湖や河川に繁殖する特定外来生物の駆除技術

周囲の植生を残し アレチウリだけを 衰退させます。



地面も樹木も覆い尽くすアレチウリ

背景・目的

- ウリ科の大型ツル性植物の「アレチウリ」が、全国の河川を中心に大繁殖し、周辺の農林水産業へも被害が広がっています。
- ダム湖周辺の当社管理地でも繁殖し、草刈りだけでは駆除できないことが課題となっています。
- 駆除を効率的に進めるため、薬剤散布によってアレチウリを衰退させていく手法を確立しました。

特長

- 年2回の薬剤散布でアレチウリが衰退します。散布当年のアレチウリは多くが枯れ、翌年度は発芽がほとんど見られません。
- 薬剤は、植物を枯らさず成長を抑える「成長調整剤」と、一年生植物の発芽のみを妨げる「発芽抑制剤」を使用するので、多年生のイネ科主体の草丈の低い緑地となり、景観も向上します。
- 発芽や成長に日射が不可欠なアレチウリは、「成長調整剤」の効果でツルを十分に伸ばせず、他の植物の陰になってしまうため、枯れたり、開花・結実ができずに、衰退していきます。

用途

- 手抜き除草での人海戦術による対策や周囲の植物まで枯らす除草剤の使用が困難な場所で、アレチウリが繁殖してしまった場合に、省力的な駆除が可能になります。



開発者の ひとこと

当社が検討してきたアレチウリの防除技術をご紹介することで、生態系保全や農林水産業への被害防止のお役立ちになるよう、本研究の結果は広く公表していくことにしています。